

津軽海峡は日本の領海である

と、政府はなぜ言えない？

リタイア後、日本の各地を旅行し、その土地に芽生えた文化に接することに興味を持っている。地形、気候、環境に基づいた文化・伝統の継承は、土地々々により異なり、まことに学ぶべきものが多い。そんな旅の一つで、東北地方の北の果て、下北半島と、津軽半島を旅し、この地の厳しい四季の変化に対応して生き抜いてきた先人の知恵と接することができ、とても有意義であった。その一つが、津軽海峡が極めて狭く、青森と北海道が目と鼻の先にあることにビックリした。



写真-1 竜飛岬、北海道の目と鼻の先



写真-2 津軽海峡を外国のコンテナ船が航行

これが津軽半島の北端・竜飛岬の写真だ。遠くにかすんで見えるのは、北海道。そこまではおよそ 23Km とのことだ。そして、二枚目は、この津軽海峡を通過している輸送船の写真。明らかに、日本国籍ではない。当然、日本が 12 海里の領海幅を政策とすれば、青森・北海道の間が、44Km あったとしても、ここは日本の領土である。何という事だ。

ところが、これが厄介だ。ご存知のごとく、この狭い津軽海峡が公海となっており、海外の船、軍艦、潜水艦が自由に航行できることになっている。産経ニュースに掲載された東海大学の山田吉彦教授に、よれば（順不同）

日本は1977年に定めた領海法で、沿岸から12カイリ（約22キロ）の領海幅を設けている。しかし、宗谷海峡、津軽海峡、大隅海峡、対馬海峡東水道、対馬海峡西水道の5海峡だけは、領海幅を3カイリ（約5・6キロ）に設定して、海峡の中央部を公海としている。

津軽海峡を東西に通航する船舶は多い。2009年にここを経由した国際航路のコンテナ船の数だけでも1798隻に上る。韓国の釜山、中国の青島、ロシアのウラジオストクなどの港から北米へと至る最短航路だからだ。

とある。

なぜ、日本の政府は、ここを 12 海里領海の主張をしないのか？ 考えられるのは、北米への最短距離行路を良しとする国に対する日本の政府の、事なかれ主義、日和見主義、そのものの結果としか思えない。とにかく、長い間、政権担当をしてきた政治家たちが、日本の国土・領海さえも守ろうとしないのは、政治家としての本分を放棄しているとしか思えない。とにかく、日本固有の文化・伝統に基づいた国民としての責務を果たそうともしない政治家は、一体、何の理由で、税金をもらって議員となっているのか、反省をしていただきたい。韓国が、竹島を実質支配している。ここが日本の領土であると、口先だけで騒ぎ立てるのなら、紙切れ一枚の重みもない。議員手当を返上するぐらいの覚悟を持って、日本は何を国際社会に訴え、日本の主張を認めさせたいのか、議論してほしい。これは、与党も、野党も同じだ。でないと、野党は、与党と一緒にあって、もっともらしい民主主義の恰好をつくるためだけの存在と見られても致し方がない。

山田教授が言うように、津軽海峡の安全を確保するために、ここを航海する船の管理を日本が責任を持って果たすために、国際社会の一員として 12 海里領海説を実行すべきだと思う。外務省は、こうした立場に立ち、韓国、中国、ロシアとの国際情勢に日本のしかるべき主張をしてもらいたい。